社会的課題の解決を目指す取り組みの可能性

―新潟県粟島を事例に―

華井　裕隆

Ⅰ．はじめに

近年では，教育基本法の改定における「社会参画」の重要性の主張もあり，児童生徒の社会参画や社会参加を取り入れた学習が注目されている。現在の 2008（平成 20）年版小学校学習指導要領の社会編にも「こうした公民的資質は，日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに，持続可能な社会の実現を目指すなど，よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものであると考えられる。」と述べており，公民的資質に社会参加力があることを明示している。そして，行政への提言や，学生が店舗を運営するチャレンジショップ，企業と提携しての商品開発など, 実際に授業や学校行事の中で社会参加をおこなう実践もさまざまに見られている。

江黒友美，竹内裕一（2008）は，まちづくり学習を通して獲得した社会認識の実態を,「Ⅰ：他者理解の視点」,「Ⅱ：社会事象を多面的・多角的に捉える視点」,「Ⅲ：放置自転車問題を中心とした社会事象の構造的な理解」の 3 点で分析している。また，松浦雄典（2013）は，批判的参加学習としての授業を通して獲得した参加行動に関わる認識を,「段階Ⅰ　学習内容の具体的事例」「段階Ⅱ　段階Ⅰから導かれた各事例の意味・概括」，そして参加行動の主体や方法に関わる知識として「段階Ⅲ 個人の自由意志の起因による参加行動」「段階Ⅳ 社会システムへの動員をもたらす参加行動」「段階Ⅴ 個人と社会との協働による参加行動」の 5 段階で分析している。

このように，社会参加の授業実践を踏まえた先行研究はいくつかあるが，児童生徒が提言した内容をもとに，学校教育全般で培った資質をどのように活用できているのかを分析した先行研究は足りていない。

新潟県の粟島浦小学校・粟島浦中学校ホームページのブログ「粟島日記」には，2016 年 1 月 25 日の校長先生の記事において,「粟島浦村では，地域創生事業の一つとして,「粟島みらい会議」を行っています。小学校の高学年の児童が第 3 回の会議で参加者に“粟島人口増加計画”を提案しました。」と書かれている。

本研究の目的は，粟島浦小学校の小学生が，2016 年 1 月 22 日の第 3 回粟島みらい会議に提案した事例をもとに，児童の提案内容を検証し，児童の提案内容を検証し，学校教育全般で培った資質をどのように活用できているのかを分析することである。

Ⅱ．粟島みらい会議の位置づけと児童の参加

１．島民による創生戦略と粟島みらい会議

粟島浦村では，「「島民による粟島創生」戦略－世代や立場を超えた「未来創造プロジェクト」－」(2016 年 3 月第 1 版) と題した文書が発行されている (粟島浦村 2016)。これによると，粟島浦村の地域創生は，以下のような経緯をたどっている。

粟島浦村は，全国で 4 番目に人口の少ない自治体である。2006 年 9 月に本保建男村長が就任後，平成の大合併の際にも，粟島浦村は市町村合併をせずに自立することを選択して，小規模自治体としての生き残りをかけて，様々な取り組みにチャレンジしてきた。2008 年度から「緑のふるさと協力隊」を受け入れるなど，島外との 連携・交流を積極的に始めた。また，2013 年度からは，小規模離島ならではの「暮らし」や馬の飼育活動を通しての「命の教育」などを教育資源として活かす「しおかぜ留学」制度を開始し，島外の小中学生の受入を開始したほか，地域おこし協力隊の受入れも始めた。これらの取り組みによって，島の人口は，2010 年の 366 人（国勢調査）から 2015 年には 370 人と人口増加に転換するなど一定の成果をもたらしてきた。しかし，移住が定住につながるような仕事づくりや，コミュニティの再生など，粟島創生を軌道に乗せていくには引き続き戦略的な取り組みが求められている。こうした状況の中，国では地方創生が大きな政策テーマとなり，その推進のため，2015 年度中には全国の市町村で，2040 年から 2060 年にかけてを目処とした「人口ビジョン」の策定と，直近 5 カ年の施策をまとめた「地方創生戦略」を策定することが要請された。粟島では，これらの経緯と国の要請を踏まえて，2016 年度からを「粟島創生の第二段階」と捉え，2015 年 7 月から 2016 年 3 月にかけて戦略策定に取り組んでいる。

粟島での『島民による粟島創生戦略』の策定に当たっては，戦略策定段階で「考えるだけでなく，まずやってみる！」こと，粟島創生戦略の作り手，担い手は村と島民の協働であること，粟島創生を支える島外の出身者やファンを巻き込んでおこなうことの 3 点を重視して策定した。特に 2 点目の島民との協働については，今後の粟島創生を担う島民（民間人）の「やりたいこと，やらなければならないと思うこと」を島民若者会議，みらい会議で討議した上で戦略に盛り込み，村が考える施策と融合する形で戦略を策定している

今回の戦略は，2015 年 7 月から本格的な検討を開始し，約半年にわたって役場内，島民若者会議，粟島みらい会議等の島民同士の対話を通じて内容を検討し，2016 年，村議会第 1 回定例会において議決された。戦略の進捗に関しては，「（仮称）島民によ

る粟島創生戦略推進委員会」を 2016 年度より立ち上げ，島内の代表者による討議・確認を中心に進めていく。また，より多くの島民との情報共有や意見交換を進めるため，2015 年に設置した「粟島みらい会議」は継続的に開催し，適宜報告をする。

そして，今回の「未来創造プロジェクト」では，まず，粟島の現況と課題を以下のように挙げている。

（1）粟島の「現状把握」－人口・産業・雇用の観点から－（①人口－日本総人口減少の中，全国的に見ても特異な人口動態－，②産業－漁業と民宿の６次産業が牽引，観光・交流関係産業が続く，③まち－定住・交流を支える住宅，交通等の基盤の現状），（2）島民による粟島創生に向けた課題（①年配者が島で暮らし続けられる環境の確保，②島民コミュニティの再構築と，行政の人材育成，③他地域と遜色なく，また島の特長を活かした教育環境の整備，④主要産業の存続・継承と，時代のニーズにあわせた新産業・仕事の創出，⑤島民による地域創生を支えるインフラの整備・維持）

そして，粟島創生の基本方針については，（1）１人１人の存在感や誇り，人間多様性を大切にした「じぶんの創生」，（2）自然の恵みと人財で，粟島への期待に応える「ありがとうの創生」，（3）粟島を担う”３つの島民”の「つながりの創生」による戦略の実行，の３点を挙げている。

さらに，戦略の基本目標として，「粟島浦村人口ビジョン」では，2040 年の人口目標を 300 人（2015 年国勢調査に基づく趨勢シナリオに対して 67 人増加させるシナリオ）としており，10 年後の 2025 年には 320 人（同 18 人増加させるシナリオ）としている。粟島創生戦略の対象期間は 2016 年度から 2020 年度にかけての５年であり，この期間中に戦略に基づく施策・事業で９名の人口増加を目標としている。その内訳として，４名はしおかぜ留学の拡充による定員増加，５名は新規のしごとづくりによる壮年代の移住増加を目指している。

では，なぜ「粟島みらい会議」に小学生が参加をし，提言をおこなうようになったのか。前述のように，2015 年には，粟島浦村にも地方版の総合戦略を作るようにという国からの指令が下りてきていた。それを受けて，村役場としては，島民が 360 人と少人数であるため，島民全体で話し合う機会を作ろうと考えた。つまり，50 歳未満の島民で構成する若者会議と，世代を区分しないみらい会議（若者会議のメンバーも入ってもよい）の主催を，村役場が呼びかけたのである。そして，その会議を担当する村役場の職員が，小学生の総合学習の発表を聞きに行っていたことがあり，なかなかよい発表であったため，ブラッシュアップして粟島みらい会議でも発表してもらうよう呼び掛けたのである[1)]。

粟島浦小学校では，2015 年，総合学習の時間に，5・6 年生（児童 5 人）を対象として，粟島の未来について考える学習を行っていた。その学習の中で，粟島が現在抱える問題は何か考えたところ，児童からは，人口減少が多く挙げられた。その後，児

童 5 人が粟島の人口増加計画を考えて，1 月 22 日 18 時半からのみらい会議で提案を行い，その場で島民から意見をもらって修正を行い，2 月 23 日に総合発表会で再度，島民に発表した。小学校の担当教諭によると，児童は，1 回目の発表で直接島民から意見をもらえたことが嬉しかったようである。児童 5 人の提言内容は，島全体で鬼ごっこをしたり，名物料理のわっぱ煮大会や釣り大会や水鉄砲大会を開催したり，船底をガラス張りにしてグラスボートで観光客を呼び込んだりというものであった。実際に翌 2016 年には，大人たちが体験型イベントを企画したこともあり，視点としてはかなかなかよかったといえる。担当教諭によると，5 人の児童がすべての発表を終えた時には，粟島にはいいところがたくさんあると認識をすることができて，地元を愛する気持ちが強くなった[2)]。

２．粟島みらい会議における児童の提言

児童 5 人の提言は，どのようなものであったのだろうか。2 月 23 日に総合発表会で再度，島民に発表した発表資料（パワーポイント）は，Ａくん・Ｄくんが 17 ページ，Ｂさん・Ｃくんが 15 ページ，Ｅくんが 18 ページと，いずれも分量の多いものである。

Ａくん：粟島水鉄砲合戦

Ｂさん：船の水族館を造ろう

Ｃくん：わっぱに大会

Ｄくん：釣りツアー

Ｅくん：内浦鬼ごっこ

上記のように，粟島の人口増加計画について 5 人それぞれの提言が出された。以下に，5 人の児童の優れている点，到達できている点を 7 つ述べる。

第 1 に，パワーポイントの作り方である。5 人とも，パソコンを駆使してパワーポイントで発表資料を作成し，しかも，プレゼンの順番をよく考えて作ることができている。1 ページ目にタイトル，2 ページ目に企画内容と参加費（と時間），3 ページ目に必要なものや協力してほしい人と予算，4 ページ目に年間計画，5 ページ目にこの企画の意義があり，6 ページから 10 ページにかけて「この企画をすると，このような効果が生まれて，めでたく粟島の人口が増える。」という説明，11 ページ以降に島民からの質問とそれに対する回答が書かれている。無駄のない構成，十分な分量で資料を作成しており，かつ，具体的な提言ができている。

第 2 に，説明が論理的である。2 ページ目（企画内容）と，5 ページから 10 ページ（企画の意義）において，第１表の例のように，よく説明されている。

第１表から第５表は，児童がパワーポイントで作成したスライド（総合発表会での発表資料）をそのまま抜き出したものである。

第１表　総合発表会での発表資料における企画内容・企画意義の記述

Ａくん	粟島水鉄砲合戦（資料 2,5～10 ページ目）
	・「粟島水鉄砲合戦（年間１２回） ・内容　・水鉄砲を相手にかける。 ルール〔相手に水をかけまくる，内浦だけ，体につけてる紙に水をかける〕 ・時間　午後１時～午後４時まで 参加費　島の人無料　大人１０００円　子供５００円 この水鉄砲合戦は，粟島だからこそできるし，捕まることもないし，楽しんで話しあって友達にもなれるから 水鉄砲合戦をすると いろんな人がくる 粟島で逃げるから粟島の事を知れる 粟島が良い所だなあと思い，粟島に住みたいと思う めでたく粟島の人口が増える。
Ｄくん	わっぱに大会（資料 2,5～10 ページ目）
	「わっぱに大会」（年間４回） 内容　粟島のおいしい料理を作って勝負する大会です。 制限時間は３時間半です。 参加費（１５００円）　１４：３０～１８：００まで わっぱにを，観光客や，粟島の住人の人とつくって，楽しくなるし，優勝賞金もあるから，やってみたい人が来ると思う。観光客とふれ合うことができるからいいと思う。 わっぱに大会をすると あまりつくれないわっぱにをつくれる。 来ていて楽しくなる。 粟島で住人の人とふれ合って楽しくなって住みたくなる。 めでたく粟島の人口が増える。

児童が作成した総合発表会での発表資料より作成

第３に，具体的な年間スケジュールが設定されている。4 ページ目（年間計画）には，各月ごとに，イベントやその準備など，何を行うのかが書かれている。表２のＣくん（わっぱに大会）のように，細かく書くことができている。

第２表　総合発表会での発表資料における年間スケジュールの記述

1 月	わっぱに大会を開くために，役場の人が準備をする。
2 月	わっぱに大会（４回目）
3 月	年回４回のわっぱに大会の計画を立てる。ポスターを作る。材料を注文する。（準備は３月からスタート）
4 月	ポスターをはる。道具を準備する。
5 月	わっぱに大会（１回目）。（わっぱに大会スタート）
6 月	改善するために話し合いをする。
7 月	準備をする。
8 月	わっぱに大会（２回目）
９月	改善するために話し合いをする。
10 月	準備をする。
11 月	わっぱに大会（３回目）
12 月	改善するために話し合いをする。

児童が作成した総合発表会での発表資料より抜粋

第 4 に，予算を細かく設定している。もちろん，現実離れしていたり考えの至らない点もあるが，第３表の例のように，一つ一つの値段を調べたり考えたりすること，合計金額を計算すること，採算など経済性を考えることができている。

第 5 に，5W1H（いつ（When），どこで（Where），だれが（Who），なにを（What），なぜ（Why），どのように（How））など要所を抑えて具体的に書かれている。「いつ（When）」は年間計画で，「なぜ（Why）」は企画の意義で，「どこで（Where），だれが（Who），なにを（What）どのように（How）」は企画内容で，細かく論じることができている。

第 6 に，島民からの意見をもとに提言のブラッシュアップを図っている。小学生だけに現実性に欠けたり答えきれていない点はあるが，第４表の例のように，他者からの質問に対して，調べたり，改善策を考案したりして回答することができている。

第 7 に，社会の構造を認識することができている。第５表の例のように，提言内容からは，粟島の地形や産業，特産品などを想定したり，役場や TV 局の役割を考えながら立案していることがうかがえる。

第３表　総合発表会での発表資料における予算の記述

Ｂさん	船の水族館を造ろう（資料３ページ目）
	必要なものや協力してほしい人　かかるだろうおよその予算 ・取材してくれるテレビ局。 ・シーバードくらいの船(レンタル)・・５００万～８００万 ・粟島のパンフレットに載せてもらう。 ・水圧に耐えられるガラス(１m×１．５m)・・・３０万 ・チラシ１０枚・・・・・・・自力で作る。 ・燃料(１年分)・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０万 ・釣りざお(１０本)・・・・・・・・・・・・・・・)４万 ・運転手（１人)・乗員（２人)・作成（２人)・・・・給料年間１６２万 合計金額　　８１６万～１１１６万円
Ｅくん	内浦鬼ごっこ（資料３ページ目）
	必要なものや協力してほしい人（最大２０人） かかるだろうおよその予算 竿３０本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５０００円 チラシ１００枚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０００円 給料１回分・・３００００円×２０人×９回　　＝５４０万円 燃料代１回につき４時間５万円×９回　　＝４５万円 合計金額　５８７万円

児童が作成した総合発表会での発表資料より作成

第４表　総合発表会での発表資料における質疑応答の記述

Ａくん	粟島水鉄砲合戦（資料 12 ページ目）
	質問　粟島の特産品とわ？　それにかかる金額 改善点　エゴ練り，ワカメ，サザエ，ジャガイモ，タコ，もずく，タケノコ
Ｄくん	釣りツアー（資料 16,17 ページ目）
	質問　釣れなかった人はどうするのですか。 改善点　おみやげやに売っている「粟島にいきたい」のおかしを箱でプレゼントします。 質問　雨天時のスケジュールはどうなっていますか。 改善点　釣りぼりで魚を釣ってもらいます。釣りぼりの魚は，釣った中の２ひきを持って帰れます。

児童が作成した総合発表会での発表資料より作成

第５表　総合発表会での発表資料における質疑応答の記述

Ｃくん	わっぱに大会（資料 10 ページ目）
	質問　審査する人，教える人はボランティアだとして，賞金のお金は何処から支払うのか。 答え　補助金をつかいます。
Ｄくん	釣りツアー（資料 14 ページ目）
	質問　どのような魚が，どのような季節にとれるのですか。 アジ・・・・・・・６月上旬～１１月下旬 マダイ・・・・・５月半ば～１１月下旬 メバル・・・・・３月～７月 ソイ・・・・・・・３月～７月 ブリ・・・・・・・８月～１２月 アオリイカ・・９月～１１月 きんメバル・・５月～９月

児童が作成した総合発表会での発表資料より作成

さて，以上のような提言をした児童であるが，2016 年３月１日号の学年便りにおいて，発表後の感想が紹介されている。第６表は，児童の感想全文を抜粋したものである。

第６表　『学年便り 第 63 号』に掲載された児童の感想

Ａくん	ぼくが粟島の人口を増やす計画で工夫したところは，二つあります。一つ目は，粟島でできることを考えたことです。ぼくがやりたいのはと考えたものは，粟島でできませんでした。なので，粟島でできることを考えました。二つ目は，ゲームの内容を工夫しました。ぼくがパワーポイントでがんばったことは，三つあります。一つ目は字の大きさです。小さいと見えにくいし，大きすぎてもはみ出るので字の大きさに気をつけました。二つ目は色です。見える色と見えない色とを区別して色をつけたことです。三つ目は字のバランスです。全部一定した字のバランスにすることをがんばりました。小学校最後の総合発表会でした。うまく発表ができてうれしかったです。
Ｂさん	わたしが粟島の人口増加計画で工夫したところは，船を改造して穴をあけて，ガラスをはって，底を見られるようにしたところです。パワーポイントの作成でがんばったところは，横からスライドして入ってくる効果をつけたり，見やすい色の配分にしたりしたところです。最初は，パワーポイントのそうさの仕方が分

	からなかったけれど，しだいに分かるようになってきたのでよかったです。本当は自分で作ったけど，とちゅうでデータが消えてしまいました。先生にちゃんと直してもらって成功できてよかったです。総合発表会では，低学年ではすずねさんのけん玉とあゆみさんのぼうのやつが上手だったです。村の人のコメントを見て，すごくうれしかったです。
Cくん	ぼくが粟島人口増加計画で工夫したところは，予算を考えて作ったところです。年間計画もうまく立てたとおもいます。次にぼくが粟島みらい会議からパワーポイント作成まででがんばったところは，みらい会議での質問の答えを考えて書いたところです。そしてパワーポイントにうちこんだりしました。あと，パワーポイントの文字の形なども工夫したり，色も工夫したりしました。がんばってうちこみました。それで，一回作ったのを見て，まちがえているところは，いろいろ直したりもしました。総合発表会での感想は，うまく練習通り発表できてよかったです。声も大きく発表できてよかったです。今度はもっと大きな声で，ゆっくり発表したいです。
Dくん	まず，ぼくが総合発表会で工夫したところは，くわしいところまでしっかり書くことです。とくにねだんでなやみました。船代でどのくらいがいいかなととてもなやみました。発表前に決まってよかったです。次に粟島みらい会議では，みなさんからたくさんの意見をもらいました。その意見をパワーポイントでうちこむのもたいへんでした。とちゅうでパワーポイントのデータが消えるハプニングもおきたけれども，本番前になおったし，発表も成功できてよかったです。さいごにみんなのコメントから分かりやすかったとか聞き取りやすかったとかのよかった点がたくさん書かれていました。ほごしゃの方からもいい意見をたくさんもらえてよかったです。
Eくん	ぼくが粟島人口増加計画で工夫したことは，値段が分からなかったので，予想よりお金を高く考えたところです。他にはにげられるはんいを決めて，遠くまでにげられないようにしたり，人数を決めたりしたところです。パワーポイントでがんばったところは，パソコンで字を大きくしたり，質問と解答をちゃんと分かりやすいように作ったところです。また，スライドショーで見直して，変なところを見つけたり，どこかぬけているところはないかなどを見つけたりするのもがんばりました。さいごにこの勉強をしてパソコンの使い方が分かりました。今まで長い間パソコンで作成することもなかったです。ぼくは，説明とかが苦手だけれど，粟島のためにこうけんできてよかったです。

『学年便り 第63号』より作成

上記の感想からは，総合学習の時間に，粟島の人口増加計画という社会的な問題解決に取り組むことで，粟島の人々と深くかかわることができ，意見をもらえてうれしかったこと，問題解決のために自分なりによく取り組めたこと，問題解決がなかなか大変であったこと，発表に関する能力が身についたこと，発表がうまくできたことなどがうかがえる。

３．児童の提言内容から見る成果と課題

5 人の発表資料を見ると，人口増加のための計画として，企画の開催回数や日時，年間計画，予算，そしてこの企画による効果について書かれており，5W1H など具体的な企画書となっている。さらには，粟島みらい会議で出された島民からの質問に対して，改善点を考えて発表をしている。具体性のある計画づくりをおこない，さらに島民からの意見をもとにブラッシュアップを図っている。そしてなによりも，この計画を立案する際に，粟島のいいところに着目して人口増加につなげようとするため，児童が粟島のいいところを発見できる学習となっている。

今回は，「〇〇をすると，めでたく人口が増える」という形で，いずれも粟島の良さを伝える計画であったが，一方で，仕事がないとか，不便であるなど，粟島のデメリットを感じて移住しない人も多いはずである。こうしたデメリットに向き合う学習もあるのではないだろうか。

合同会社かがり火の雑誌『かがり火』159 号には，粟島に移住した様々な人のインタビューが掲載されている[3)]。

第７表　『かがり火』第 159 号における粟島の魅力についての記述

粟島の魅力（幼少時の釣りの記憶，人々の関わり，子育てしやすい環境）	「妻の勤務地について回るかたちで，長岡市や南魚沼市に住んだのですが，粟島は僕の希望で移住することを決めました。小学３年の時，釣りが趣味だった父親に連れられてこの島に来たことがあったのです。あの時の記憶が鮮明で，どうしても島で働きたいと思ったのです。妻が粟島浦村への転勤願いを出したら幸い受理されて，妻と子ども３人で島暮らしを満喫しています。今は粟島で子どもたちの世話や馬を飼育している『あわしま牧場』の手伝いやエコツーリズムの企画にかかわっています」 　島からの流出人口が続く中で，希望して島に入って来る若者もいるのだ。明星さんは地域の人たちが子どもを大切にしてくれるので，子育てには最高の環境にあるという。
粟島の魅力（動物），田舎の不便は感じない	「あわしま牧場」で 11 頭の馬の世話をしているのは NPO 法人インフォメーションセンターから派遣されている田中歩さん(27)。 「僕は東京の蒲田出身ですが，動物が好きで中学を出ると本社が沖縄県

	東村にあるこの会社に入りました。牧場はほかに北海道，山形，埼玉，島根，神戸，沖縄に持っています。粟生島馬は絶えてしまったので，現在はDNAがいちばん似ているといわれる『道産子』を飼育しています。都会育ちに田舎暮らしは不便ではないかと聞かれることがあるのですが，これまで勤務した沖縄も神戸も牧場は市街地から離れたところにあったので，ここも不便は感じません」
粟島の魅力（魚料理のおいしさ，仕事のチャンス）	何とかして漁業の付加価値を高めなければいけないと立ち上がったのは，やはりＩターン者だった。粟島水産加工協同組合の持舘和憲さん(43)は2011年のあの大震災の時，南相馬市小高区で居酒屋を経営していた。原発事故で警戒区域に指定され，避難を余儀なくされた。福島県本宮市で避難生活を続けながらアルバイトもしたが，大抵2カ月でクビになる。それ以上雇うと雇用主に社会保険を納付する義務が生じるからだ。 「いつまでも流浪の民のような暮らしもしていられないし，しっかりした仕事を見つけねばと考えた時，父親は漁師だったし，自分も毎日魚に触れて生きてきたので，魚に関係する仕事をしようと決心しました。粟島には知人の勧めで2012年の11月に下見に来ました。2泊のつもりでしたが，民宿の魚料理のおいしさに引きずられて結局5泊しました。この下見の時に粟島に鮮魚はあるけれど干物がないと気が付き，水産加工を立ち上げようとひらめいたのです」
粟島の魅力（海も山もある田舎），地域の未来についてアイデアや意見を出し合う場が少ない	林さんは，都市の生活に魅力を感じないという。結婚して住むなら，海も山もある田舎が絶対にいいという。 「若い女の子がみんな都会が好きなわけじゃありません。買い物が不便のようですが，インターネットがありますので，大抵のものはあまり時間もかからず手に入ります。最近は山ガール，島ガールも増えていて，田舎暮らしを志向している女性は多いと思います。私はぜいたくな暮らしは望んでいません，何とか暮らしていける仕事があればいいんです。どこの島でも感じたことですが，地域の未来について自由にアイデアや意見を出し合える場が少ないですね。田舎は隣近所が親密でしょっちゅう話し合っているようですが，運動会やお祭りの準備で集まることはあっても地域の将来について話し合う場って意外にないんです」
粟島の魅力（手つかずの自然，分かち合う文化）	「うちの社長の吉岡淳が本保村長と親しく，島おこしを手伝うために交流機能のあるカフェをオープンさせることになりました。私たちが東京の店を退職して移住したのは，手つかずの自然のあるこの島が大好きだからです。島には分かち合う文化があって，私たちが魚や野菜を買うことはほと

	んどありません。昨年結婚したばかりでまだ子どもはいませんが，この島で子育てできることにわくわくしています」と健一さんは島の魅力を語る。
粟島の魅力（イワユリ，オオミズナギドリ，ウミウ，湧水など）魅力を集めたマップがほしい	「島にすぐにも必要なのはマップじゃないでしょうか」とおっしゃるのは，さやかさん。 「それも，手作りのシンプルなマップでいいんです。ここに行けばイワユリを見ることができるとか，運が良ければオオミズナギドリやウミウが見られるポイントとか，この小道の奥では湧水が飲めるとか，そんなことを書いたマップです」と提案する。 マップといってもカラー印刷された立派な観光ガイドと考える必要はないわけだ。手描きの素朴なものこそ親しまれるという，よそ者の発想は重要だ。

『かがり火』159 号をもとに作成

上記のように，移住者の話からは，粟島には，自然環境や郷土料理だけではなく，島民とのつながりの深さという良さがあることや，まだまだ開拓できる仕事があることがうかがえる。このように，デメリットがあってもより多くのメリットを重視して引っ越してきた移住者の話を聞いてヒントをえたり，新たな仕事を考案したりすることも，地域の社会問題解決学習として考えられる。

４．多種多様な児童・生徒の社会参加

粟島では，今後，みらい会議などの議論を踏まえて作成した戦略にもとづいて動いていくことになる。現段階では，小中学生に参加を求めることは，村役場としては考えていないとのことである。しかし，そもそも粟島の小中学生の社会参加は，非常に多いことを村役場も認識している[4)]。

4 月には PTA が主となってわかめの収穫を行い，乾燥させたわかめを学校の体育館で袋に詰める。5 月の島開きのイベントでは，子どもたちがよさこいソーラン踊りを踊る。6 月には，TV 局主催のクリーンアップ作戦に参加してゴミ拾いを行う。9 月の学校運動会や 11 月の文化祭には島民が参加するし，10 月の村民運動会には，子どもたちも参加する。他にも，地域の人が先生となって，子どもたちに読み聞かせのボランティアをしていたりしている。また，島民の健康ウォークや冬のゲートボール大会，敬老会の出し物にも児童は参加している。その一方で，小学校の体育館で行われる文化祭の半分は島民の作品展示であったり，児童会が主催し，児童が 4 つのグループに分かれて出店する，粟小フェスティバルにも，地域の人が見に来てくれたりと，島民も積極的に学校へ足を運んで協力をしている。その他にも，島以外から来るしおかぜ留学生が，おばあさんの畑を手伝うなど，いつでも島と学校は一緒という感じがあり，

他の市町村よりも村と学校の結びつきは強いと感じられる。昔はさらに，学校や教員と島民の関わりが濃かったといわれている。

粟島浦小中学校の教育目標には，島への社会参加について書かれていないが，校歌（三番）には，「為せばなる　不屈の意気を　島おこす　創意こらさん」と書かれており，島に対する教育の思いが込められている。粟島は本州から遠く離れており，天候が悪いと船が出航できないため，無医村であるこの島では，お互いに助け合ってやっていかなくてはならない。もちろん雪かきも助け合って行っており，学校も地域の中にいないとやっていけない。共助の精神が根付いている島では，地域と学校の結びつきは非常に深いものである。

また，中学生も社会参加をおこなっている。粟島では，中学生がキャリア教育の一環として，粟島産の大豆「一人娘」を使用したアイスクリームの商品開発に加わっている。大豆ならではの，イソフラボンが入った人口調味料・着色料無添加の身体に優しいアイスで，パッケージには粟島の中学生原案の「豆ずきんちゃん」がデザインされている。値段も中学生が考えて設定し，粟島や，長岡市のお店でも販売しており，2015 年の 11 月には，知事に贈呈をしている。2016 年には，小学生が，5 月の豆まきのところから「一人娘」を育てる作業に関わっている[5)]。

以上のことをまとめると，現在は，粟島みらい会議などの議論を踏まえて出された戦略に基づいて動き出す段階であり，村役場として，児童に社会参加を求める動きはない。しかしながら，粟島は，その地域的特性から，もともと地域と学校が密接に協力し合っている土地柄である。さらには，キャリア教育の一環により，中学生も商品開発という形でまちおこしに関わっている。このように考えると，総合戦略策定への提言だけではなく，今後も様々なかたちで，小中学校の地域への参加や，まちおこしへの提言がおこなわれる素地がたくさんあるといえる。

Ⅲ．おわりに

本研究の目的は，粟島浦小学校の小学生が，2016 年 1 月 22 日の第 3 回粟島みらい会議に提案した事例をもとに，児童の提案内容を検証し，学校教育全般で培った資質をどのように活用できているのかを分析することであった。

今回の発表資料では，国語や算数，社会の資質だけではなく，表現力や資料作成力，企画力，コミュニケーション力などさまざまな資質が活用されていた。5 人それぞれの発表資料が一定の水準にあることから，細かく丁寧に指導されたであろう担当教諭の指導力の賜物であるとも感じる。

今回の学習を通して，児童は，粟島の人々と深くかかわることができ，意見をもらえてうれしかったこと，問題解決のためによく取り組めたこと，発表に関する能力が身についたこと，発表がうまくできたことなどを感想として書いている。また，粟島

の魅力が再発見できて，粟島を愛する気持ちが強くなったと担当教諭は感じている。非常に得るものの多い学習であったといえよう。

また，前章で述べたように，粟島は，その地域的特性から，もともと地域と学校が密接に協力し合っている土地柄である。さらには，キャリア教育の一環により，中学生も商品開発という形でまちおこしに関わっている。このように考えると，今後も様々なかたちで，小中学校の地域への参加や，まちおこしへの提言がおこなわれる素地があるといえる。

謝辞

本研究では，粟島浦村役場，粟島浦村教育委員会，粟島浦小中学校の皆様をはじめ，多くの方々にお世話になりました。この場をお借りして，厚く御礼を申し上げます。

注

1）粟島浦村総合政策室の職員への聞き取りをもとに筆者がまとめた
2）当時の担任への聞き取り調査をもとに筆者がまとめた
3）合同会社かがり火：特集「日本海の小さな島・粟島浦村(新潟県)で人口減少を考える」．http://www.kagaribi.co.jp/GeneratedItems/159/159tokusyu.html（2017年7月20日）
4）粟島浦村総合政策室の職員への聞き取りをもとに筆者がまとめた
5）粟島浦村総合政策室の職員，粟島浦村小中学校の管理職，粟島浦教育委員会の職員への聞き取りをもとに筆者がまとめた

文献

粟島浦村（2016）:「島民による粟島創生」戦略 －世代や立場を超えた「未来創造プロジェクト」－．http://www.awashimaura.sakura.ne.jp/wp-content/uploads/2017/01/sogo_2.pdf（2017年7月20日）

江黒友美・竹内裕一（2008）：市民ワークショップとの連携を図ったまちづくり学習に関する研究．千葉大学教育学部研究紀要, **56**，pp. 131-140.

松浦雄典（2013）：社会科における批判的参加学習としての授業構成 －小学校第4学年「安全なくらしを守る人たち」を例に－．社会科研究, (79)，pp. 37-48.